

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300103		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム徳地あいおい苑		
所在地	山口市徳地堀1785-1		
自己評価作成日	平成26年7月31日	評価結果市町受理日	平成27年4月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年8月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に生きる」を理念とし、入居者と職員・家族・地域の皆さまと、大いに関わり・日々共に笑い・泣き、共に分かち合えることを目指し実践している。地域の方々とも身近なお付き合いができるようになり、ご家族や昔からの馴染みある友人なども気軽に立ち寄れる雰囲気作りを努めている。  
四季に合わせた行事や個々の能力・状態に応じた活動、集団で楽しめるレクリエーション活動など、日常生活の中で楽しい・嬉しいと思える場面が増やせるよう職員全員で取り組み実践している。日々の会話や家事手伝いなど一緒に過ごす中で、援助方法の見直しや健康への気配りを含め、生き甲斐を持った笑顔に会えるよう心がけている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入され、地域の清掃活動や集会に職員が積極的に参加され、地域主催の夏祭り(花火大会)に飾る提灯づくりを利用者と職員が一緒にされ、周辺を飾るなど、事業所と地域のつながりを大切にされて、事業所が地域の一員として日常的に共有されるよう取り組まれています。地域の高齢者を事業所に招待され、食事やお楽しみ会、ボランティアによる余興と一緒に楽しむ会を開催され、地域交流を図っておられます。食事づくり担当職員を配置され、三食との事業所で調理され、利用者の好みを聞いて家庭料理にこだわった献立で、利用者と職員と一緒に買い物に行かれ、下ごしらえや台拭き、下膳、食器拭きなど、できることを一緒にされて、会話をしながら一緒に同じテーブルを囲んで食事を楽しんでおられます。毎月の外出支援に外食(ファミリーレストラン、道の駅など)をセットして企画され、利用者一人ひとりがメニューを見ながら注文して、運ばれてくるまでわくわくして待つなど、食事が楽しめるように工夫して支援しておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「共に生きる」を掲げ、日々の生活を入居者・職員間はもちろんのこと、別に住むご家族や地域の方々とも、喜怒哀楽を共に分かち合えることができる環境作りに努めている。	事業所独自の理念と基本方針を事業所内に掲示し、それに沿った基本目標を毎年作成して、利用者の思いを大切にしたい支援をすることについて、全職員で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の高齢者を招待した交流会や、日常的な散歩・買い物、散髪など地域の一人としてお付き合いできる環境作りをしている。	自治会に加入し、年2回の清掃活動や集会に職員が参加している。年1回の事業所主催の交流会に地域の高齢者を招待し、食事をしたりお楽しみ会などで交流している。中学生や高校生の体験学習の受け入れやボランティア(手打ちそばの実演、手芸、エレクトーン演奏、高校生による吹奏楽演奏会、オカリナ、寸劇、民生委員による除草)の来訪がある。地域の夏祭りですぐ提灯を作成したり、花火大会の見学に出かけている他、花火大会に合わせて開催する事業所主催の納涼祭に法人他事業所の利用者が参加して交流している。散歩や買い物時、理美容院で出会う地域の人と挨拶を交わしたり、近所の人から野菜や花の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設イベントへ招待や、学生の職場体験やボランティアの受け入れなどを通して、苑の取り組みや認知症への理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価については、職員ミーティング等を通して説明し、ケア方法や具体的な取り組みなど個別カンファレンスやミーティングで協議し改善に向け取り組んでいる。	管理者は自己評価の項目について職員に説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布して記入してもらい、管理者がまとめている。職員は自己評価を日々のケアの振り返りと捉えて、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、施設の現状や今後の取り組みを報告している。また、出席者よりいただいたご意見は、サービス向上に向け活用している。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告、行事報告、ヒヤリハット・事故報告、外部評価の報告をして意見交換している。事業所が道路より下にあるため、風水害について話し合うなど、地域との関係づくりに努めている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当課や地域包括支援センターとは、運営推進会議の他、窓口や電話で相談したり助言を求めるなどしている。	市担当者とは、電話や直接出向くなどして事業所の実情や取り組みを伝えるなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議等で、情報交換するなど連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室の窓など開錠・開放し、開放的な環境で過ごしていただけるようにしている。外出を察知したときは、一緒に出かけるなどの工夫をしている。また、言葉のかけ方については、職員同士話し合いスピーチロック防止に努めている。	内部研修で学び、職員ミーティングで話し合い、職員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関や居室は日中施錠しないで、外出を察知した場合は一緒に出かけるなど工夫している。スピーチロックに気づいたときは、職員同士で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修参加により得た知識は、職員ミーティングで報告すると共に日常業務を再確認している。日常ケアを行いながらお互いが無意識のうちに虐待行為を行っていないか、職員間で確認しながら防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度および日常生活支援事業の利用者を受け入れている。ご家族等から相談があれば適切に利用できるよう説明し、利用開始に当たっては関係者と協議し調整している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ねた上で十分な説明を行い、理解・納得していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け担当者、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。ご家族へは「ご意見用紙」を配布や無記名によるアンケートを調査、面会時に状況報告を行うと共に意見や要望を聞くようにしている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、第三者委員を明示して、契約時に家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。面会時や年1回の家族会開催時に「ご意見用紙」を配布して、家族の意見や要望を聞いている。家族より行事の予定を早く知らせてほしいという意見があり、職員間で話し合い、事業所だよりの内容を改善するなど、意見を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングに於いて、意見交換を行いより良い支援につなげられるよう努めている。また、年2回行う個別面接などにおいても意見などあれば、運営に反映できるよう努力している。	管理者は職員ミーティングや年2回の個別面接で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。職員より、業務中の携帯電話の所持について意見があり、検討中である。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シート・面談により意見・要望などを把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。また、週一回の統括会議に於いて、現状報告と改善に向けた協議を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回開催の法人内部研修への参加や随時行われる外部研修への情報提供を行い、業務の一環として参加の機会を設けている。受講後は復命を行うと共に、研修内容を職員全員で共有できるようにしている。	外部研修は、情報を伝え、希望や段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命して、全職員で共有している。法人研修は、毎月1回実施し、職員は参加している。内部研修は月1回「認知所ケア、食中毒、感染症や倫理、法令順守など」について実施している。新人研修は法人で1か月程度研修した後、事業所で中堅職員がついて働きながら学べる様に支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	業務として積極的に外部研修参加できる体制を作り、法人内のグループホーム部会による交流会や他事業所による職場訪問(研修)などを通じ、意見交換や体験実習および受講後の復命を行うことで、質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族との面接、医師・MSW・介護支援専門員からの聞き取りを行うことで、入居者の生活歴、思いを確認し、サービス導入時に安心して暮らせる環境作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談では、不安などが解消できるような相談にのり、入居後は苑での近況報告を行うことで安心していただけるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面接を行い、どのような支援が必要か見極め、必要に応じて他のサービスについての情報提供・相談や利用の仕方などの説明を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様に意思確認を行いながら、ご自分で「できる」と言われたことは自立に向けた支援を行い、できないことの援助で共に暮らしている。職員・入居者共に一緒に生活する一人として、お互いが知恵と能力を出し合い、支え合って日々を過ごしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りによる近況報告、面会時にご家族との面接で、できる限り家族と職員とが情報を共有化でき、それぞれの立場から同じ目標に向けた支援を行うことができるよう働きかけている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族による面会拒否がない限りは、昔の同僚や近隣の方の面会を受け入れている。また、長年の関係が途切れないよう個別支援を含め交流支援をしている。施設での暮らしが広がりあるものとして感じられるよう心がけている。	家族や友人、知人の来訪がある他、知人の三味線の発表会に出かけたり、家族の協力を得て、法事や結婚式への出席、寺参り、買物、馴染みの美容院の利用、外泊、外出など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の意志を尊重し、自由に過ごしていただけのようにしている。ひとり一人の状態を把握し関わりを持つことが難しい方については職員が介入し、入居者同士仲良く笑顔で過ごせるよう、座る場所や会話など配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居が終わりではなく、いつでも相談できる関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己判断可能な方については、本人の要望を聞き、困難な方については、日々の行動や言動、またケアへの反応など些細な気づきを基に本人の思いの把握に努め、担当者を中心にカンファレンスで検討し希望に添えるよう努めている。	入居時のアセスメントの活用その他、日常の関わりの中での言葉や行動、入浴時の様子などを介護記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から話を聞き、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・ご家族からの聞き取りや関係機関からの情報提供、入居後に於いてはそれぞれ機会ある毎に聞き取った話を記録にし、支援の参考にしていく。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動や行動などを把握に努めると共に個別経過記録に記載し、申し送りやカンファレンスを通し職員同士が情報の共有化を図っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を把握すると共に、カンファレンスを通して現在の状況や課題(原因や背景)を意見交換し、情報を共有すると共に同じ視点で支援できるよう、その場に即した支援計画を作成している。	月1回カンファレンスを開催し、利用者を担当する職員や計画作成担当者を中心に、利用者や家族、主治医、看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。事業所独自の支援シートに基づいて3ヶ月に1回モニタリングを実施し、1年ごとに見直しをしている他、状況に変化が生じた場合はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、経過記録、受診記録などから情報共有を図っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズの把握に努めると共に、医療機関(専門医)の受診や福祉用具の利用など広い視野を持ち、専門家による意見を聞きながら支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他事業所との交流やボランティア受け入れ、学生の職場体験などを通じた交流を図っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を確認すると共に、体調不良時には迅速に受診支援を行っている。また、協力医療機関とは密接な関係を保っており、状態に応じ相談・受診できる体制づくりをしている。	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医を決めている。他科も含めて、家族の協力を得て受診の支援をし、医師の指示を直接確認して共有している。協力医療機関の月1回の訪問診療がある。法人の訪問看護ステーションの看護師との連携や協力医療機関の緊急時の対応など、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者に体調の変化があれば随時看護師に報告し指示を仰ぐようにしている。また、施設看護師に於いては、協力医療機関の医師又は訪問看護師と相談し適切な対応が図れるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族・主治医・MSWと情報交換を行いながら状況把握に努めている。退院時に医療機関などから得た情報をもとに、職員間で情報共有し退院後安心して過ごせるような環境作りを行い受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時に施設の方針を説明している。受診状況をご家族に報告すると共に、重要な段階にきたときは、本人・家族・医師・訪問看護師・職員間で協議し支援している。	契約時に、重度化した場合の事業所の対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医、訪問看護師、職員で話し合い、方針を共有して支援取り組んでいる。「看取りについての同意書」を交わしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	「事故」・「ヒヤリハット」については、記入するだけでなく原因を把握するように努め対応策を協議し再発防止に取り組んでいる。ご本人様の性格、生活の中での行動パターンを把握し、危険予知を行うと共に予防対策を図っている。緊急時の応急手当については、職員ミーティングのや日々の生活の中で初期対応できるように、看護職員を中心に実践・訓練している。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、対応策を話し合い、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。看護師による転倒、誤嚥、呼吸困難、意識消失等の応急手当や処置方法を学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中・夜間想定で避難消火訓練を実施している。また、運営推進会議や自治会総会などで苑内の状況報告および訓練への参加を呼びかけている。	年2回、日中、夜間を想定した避難消火訓練を実施している。水害等の災害時は法人施設に避難対応が確保されている。運営推進会議や自治会の総会などで、災害対策や避難訓練への参加について働きかけている。自治会長が事業所の避難訓練の見学に参加している。地域との協力関係を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた意向・意志尊重・敬意を持った声かけを行うようにし、馴れ合いにならないよう努めている。不適切な対応があれば、職員同士が注意しあうようにしている。また、一つの支援方法としてご家族にも理解を得た上で呼びかけの工夫をしているケースもある。	内部研修で人格の尊重やプライバシーについて勉強会を実施し、職員は拘束や抑制をしないケアに取り組んでいる。不適切な言葉かけに気づいたときは、その場で管理者や職員同士で注意し合っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせた声のかけ方を行っている。表出が難しい方には選択肢を与え、その中から選択できるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設における大まかな生活リズムはあるが、起床から就寝まで個々の体調やその時々的心情を尊重した時間を過ごして貰っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択できる方については自主的に更衣されている。できない方については気候にあった服装ができるよう、職員と一緒に選んで着てもらっている。化粧品の補充や美容院の利用などご本人様の要望をご家族と相談しながら支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事はもちろんのこと、日々の食事が楽しみなものになるメニューの工夫を行っている。盛りつけや配膳等を工夫すると共に、食べ易いよう食器等にも配慮している。また、好きなメニューを注文できる外食の機会を作ったり、下ごしらえやなど作る喜びが共有できるような取り組みをしている。また、後かたづけなどを手伝って貰うことで、一緒に生活する楽しさを感じていただいている。	食事づくり担当者を配置し、利用者の好みを聞き、家庭の料理にこだわった献立で、三食とも事業所で調理している。利用者は職員と一緒に食材の買い物に行き、下ごしらえ、台拭き、下膳、食器拭きなど、できることを一緒にして、会話を楽しみながら食事をしている。月1回の戸外ドライブでは外食(ファミリーレストラン、道の駅など)をとり入れ、好きなメニューを注文して食事を楽しんでいる。おやつづくり(ゼリー、クッキー、カップケーキ、ホットケーキなど)、そば打ち体験やそうめん流しなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量、排泄状態を把握と体重の増減を確認し健康が維持できるよう、個別に調理方法や盛りつけ方など摂取し易いよう工夫している。また、必要に応じ医師と栄養状態を相談しながら指示を貰っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守りなどで一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを把握し、適宜声かけや誘導を行っている。	排泄表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に排便できるよう、水分摂取量や運動、飲食物の工夫を行うと共に、排便状況把握のため、管理簿を工夫し対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	隔日に入浴できるようにしている。入浴拒否などがあれば、時間や入浴日を変更したり、職員が交代するなどの対応をしている。また、個別に入浴剤の使用や、温度調整、入浴の順序などその方に配慮して、入浴が楽しめる環境作りを行っている。	隔日の13時から16時頃の間可能。入浴したくない人には、時間をずらしたり、職員を交代したり、声かけの工夫をしている。体調に合わせて、足浴やシャワー浴、清拭などを行い、入浴剤を好む利用者には入浴剤を使用するなど、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休息や睡眠ができるようにしている。夜間良眠できるよう、日中の過ごし方などにも配慮した支援を行っている。寝付きの悪い方については、話をする、飲み物を提供するなど気持ちが落ち着くまで寄り添う支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬チェック簿により服薬管理を行い、薬事情報も直ぐに確認できる場所に設置している。また服用し易いよう医師や薬剤師と相談の上、薬の形状(錠剤・散剤等)を変更するなど配慮している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の能力に応じたものを提案し、自己選択していただいている。ひとり一人役割意識を持っていただき、張り合いを持てるよう声のかけ方にも工夫し楽しめる環境作りに取り組んでいる。	書道、生け花、唱歌、ぬり絵、はり絵、ちぎり絵、折り紙、裁縫、ラジオ体操、風船バレー、計算ドリル、漢字ドリル、新聞の書き写し、ボランティア(手芸、オカリナ、エレクトーン演奏、そば打ち、寸劇等)の来訪、そうめん流し、餅つき、地域の人々とお楽しみ会、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、野菜の収穫、提灯づくり、さげもんづくり、梅ジュースづくり、台拭き、下膳、食器吹きなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の日常的なさりげない言葉に耳を傾け、希望に添えるよう努力している。また、お誕生日にはその方の希望を聞きながら馴染みある場所や旧友と再会など個別支援に努めている。	散歩や買い物、季節の花見(梅、菖蒲、フジ、ひまわり、コスモス)、蛍狩り、ドライブ(道の駅、常盤公園、動物園、ファミリーレストラン、サファリーランド)、高校の文化祭、地域の行事(夏祭り、神社の祭り)、個別の誕生日外出、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用、寺参り、法事への出席など、一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を自己管理されている方もおられるが、生活用品の購入やお小遣いについては家族よりお預かりし施設で管理している。一緒に出かけ商品を選んだり支払いをして貰ったりしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便りを発送を行っている。本人の希望があれば電話の取り次ぎや手紙をポストに入れるなどの支援を行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるよう玄関やリビングには花や利用者が作成した作品を飾り、壁には思い出の写真を掲示している。	共用のリビングは、広く、天窓からの採光で明るく、外出した時の思い出の写真や利用者や職員と一緒に作った季節の貼り絵、折り紙、ぼんぼり、さげもんなどを飾っている。テレビの前に椅子やソファを配置し、気のあった利用者同士で思い思いに過ごせる居場所づくりの工夫をしている。キッチンから調理の音や匂いがして、生活感を感じることが出来る。並列の回廊式の2ユニットで、利用者が廊下を行き来して声をかけ合い、会話を楽しんでいるなど、居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなど家具の配置を工夫し、落ち着ける場所作りを行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や生活用品は馴染みある物を持ってきて貰っている。家族の写真や手作りの手芸作品など飾り、それぞれが落ち着ける空間作りがされている。	馴染みの鏡、タンス、衣装ケース、机、いすなど、好みのものを持ち込み、ぬいぐるみや家族写真、利用者が作った作品などを飾って、落ち着いて生活できる居室づくりを工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所については、理解し易いよう表示の工夫をしている。居室についても本人が解りやすいものを飾るなど認識し易い物にするなどしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム徳地あいおい苑

作成日: 平成 27 年 3 月 30日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	全職員が事故発生時に備え初期対応が実践できるようようにする。	ヒヤリハット報告書・事故報告書を検証し事故防止に取り組むと共に、緊急時に対応できるよう、看護師に指導を受けながら研修・訓練を実施する。	1年
2	36	災害時における地域との協力体制の構築	災害等発生時の避難が必要な場合に於いて、地域の協力が得られるようにする。	運営推進会議や自治会での集まりを通し、施設の状況を知ってもらうと共に訓練への参加や協力を呼びかける。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。